

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点（令和6年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年12月に「3期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

松江市の中心市街地活性化を目的に、令和4年10月に設立した民間まちづくり会社「株式会社まつくる」が令和5年11月に都市再生特別措置法第118条に基づき、地域のまちづくりを担う法人として市町村が指定する都市再生推進法人となった。都市再生推進法人には、市や民間デベロッパー等では十分に果たすことができない、まちづくりのコーディネーター及びまちづくり活動の推進主体としての役割を果たすことが期待され、まちなかの賑わいや交流創出のための施設整備や管理運営、都市開発事業の実施やその支援、まちづくりに関する専門家派遣、情報提供などを主な業務として、中心市街地活性化に繋がる様々な事業を展開していく。

令和5年度は経済産業省の「地域商業複合化推進事業」を活用し空きビルをリノベーションすることで中心市街地エリアに賑わいの拠点施設が整備された。令和6年度に本格稼働となることから、賑わいの創出が期待される。また、「チャレンジショップ支援事業補助金」では申請が14件と高水準での推移を続けており、令和6年度も引き続き出店する事業者を支援することで既存ストックを活用したまちづくりの広がりを期待する。

令和4年度に続き令和5年度も中心市街地の宿泊集積地において、観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」を活用し宿泊施設・観光施設の高付加価値化改修に17施設が取り組んだ。これにより観光地としての魅力向上を図り、今後の観光需要の取り込みに向けての整備を行った。観光入込客数はコロナ以前とはいかないものの順調に回復していることから、宿泊に繋がる水燈路などの夜のコンテンツの強化、インバウンド対策により宿泊客数の増加に繋げたい。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、各イベントの参加者数は順調に増加しているが、開催数や水辺の公共空間の活用日数が伸び悩んだ。また中心市街地の通行量も前年度に比べ減少した。令和6年度は更なる取り組みの強化により活気の創出を目指す。

中心市街地の活性化に向けて令和5年度は様々な取り組みがなされたことで中心市街地活性化の機運醸成がなされた年であった。令和6年度はその事業発現が期待できる。また、人口が増加に転じたことも今後の活性化の追い風になると考える。引き続き官民が一体となって事業を進

め、中心市街地の活性化を目指していくことが重要である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

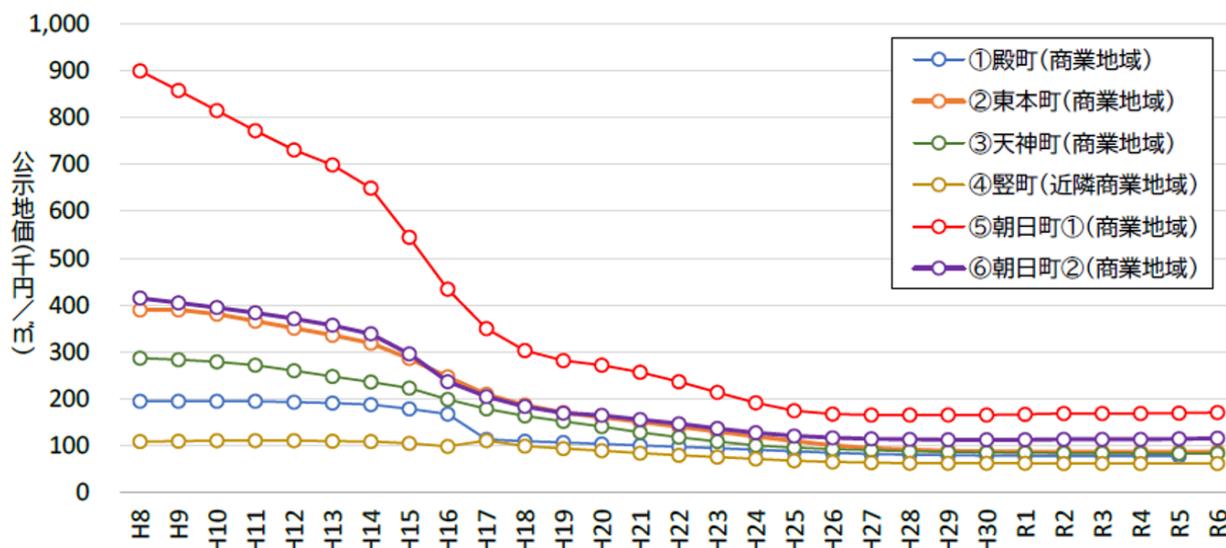
(基準日：毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(中心市街地 区域)	平成30年 度(計画前 年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
人口	7,548人	7,411人	7,253人	7,161人	7,144人	7,186	
人口増減数	-100人	-137人	-159人	-92人	-16人	42人	
自然増減数	-83人	-89人	-69人	-98人	-93人	-107人	
社会増減数	-17人	-49人	-89人	6人	76人	150人	
転入者数	291人	297人	241人	277人	324人	323人	

(2) 地価

中心市街地の商業地の地価の推移



資料：国土交通省地価公示

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和元年12月、第3期計画が国の認定を受け、「歴史・文化・水辺を活かす、若者が活躍する松江のまちなか」を目指し、官・民・学が連携して鋭意各種事業を協働で実施してきたところであるが、令和5年度終了時の結果からは3つの目標指数が不達成状況を鑑みると、引き続き官民学が一体となった推進を図り、目標値を達成しなければならない。

昨年度は、中心市街地の活性化を目的として設立した民間まちづくり会社「株式会社まつくる」が都市再生推進法人に指定され、まちづくりのコーディネーター及びまちづくり活動の推進主体者としての役割を果たされており、まちなかの賑わいや交流創出のための施設整備や管理運営、都

市開発事業の実施やその支援などを主な業務として、中心市街地活性化に繋がる様々な事業を展開されている。特に、約30年ぶりに復活をした「土曜夜市」は、単発的な賑わいイベントではなく、空き店舗などを活用し当エリア外のお店やチャレンジャーの出店を招喚し、将来このエリアでの商いを視野に入れていただくことを目的とされ実施されたことが評価される。

また、松江市総合計画に位置付けられる「職人商店街整備」・「水辺の利活用」を後押しする事業、さらには、空き店舗をオフィス・飲食店に改装し、エリアに滞在する人口増や消費拡大を促進されており、今後もエリア内外の事業者を含めた行政機関との一層の連携を求める。併せて、「地域商業複合化推進事業」をはじめ「チャレンジショップ支援事業補助金」を活用された出店事業者のフォローを引き続き行うことは必須であると同時に、若手起業家の出店や商店街イベントへの学生の参画、経営者の経営革新（SNS活用・キャッシュレス決済等）などの取り組みによる観光地の再生・観光サービスの高付加価値化による魅力向上も推進しなければならない。

3期基本計画では「既存ストック活用などによる活気の創出」「水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり」「歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大」の3つの基本方針を掲げ、設定された目標値の実現に向けた具体的な取り組みも提示されていることから、この3期計画が円滑かつ着実に実施されることにより、中心市街地の活性化に大きく寄与するものと考えられる。ついては、官・民・学が一層連携し、一体的に各種事業を協働で進めていくことが重要であると考え、本協議会の運営に対し今後とも積極的な支援を継続されたい。

以上のことを踏まえ、当協議会は、3期計画定期フォローアップの内容につき妥当であると判断する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	30件 (H26~30年度累計)	53件 (R元年12月~7年3月累計)	59件 (R元年12月~6年3月累計)	A	①	①
	(※補完指標) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日)	20,060人 (H30年度)	23,066人 (R6年度)	18,571人 (R5年度)	C	①	①
水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水辺の公共空間の活用日数	548日 (H26~30年度累計)	948日 (R元年12月~7年3月累計)	1,475日 (R元年12月~6年3月累計)	A	①	①
	(※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数	431千人 (H30年度)	497千人 (R6年度)	670千人 (R5年度)	A	①	①
歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	43千人 (H30年)	65千人 (R6年)	27千人 (R5年)	C	2	2
	中心市街地内の宿泊客数	1,269千人 (H30年)	1,374千人 (R6年)	1,230千人 (R5年)	C	2	2

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「遊休不動産の事業化件数」については、令和2年度にチャレンジショップ事業の対象エリア拡大等を実施したことや、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、コロナ以前の日常を取り戻しつつあることから、補助申請事業者が順調に増加し、令和5年度は14件の活用であった。これにより目標値を達成した。今後も、「水の都松江のまちの Re-project」事業の新たな取り組みとチャレンジショップ支援事業の推進により、遊休不動産の事業化件数の増加を目指す。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日）」については、前年から3,224人減の18,571人となり前年度に比べると減少し、基準値以下となった。しかし、中心市街地の宿泊客数及び外国人宿泊客数が回復してきていること、また、新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却が図られたことにより今後は主要事業の効果発現を期待できることから、まちなかの賑わいが増進し、通行量が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の活用日数」については、単年度で見ると令和4年度から減少し280日であった。しかし累計としては目標を達成しており、水辺の活用は順調と言える。令和6年度は「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により水辺空間の利活用が更に増加することが見込まれる。

「水辺の公共空間の来訪者数」については、令和4年度から257千人増加の670千人となり、目標達成となった。令和4年度より有料観覧席を設け、打上発数を増加した日本有数の花火大会「水郷祭」の来訪者数が650千人であったことが大きく影響した。その他、水辺を活用したイベントも数多く実施されたことが要因である。今後もイベント等の開催が見込めることから、引き続き水辺の来訪者数の増加を目指す。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和4年から24,000人増の27,000人となった。アフターコロナでインバウンド需要増加に伴い、松江市中心市街地の外国人宿泊客数も増加につながった。水郷祭が各日10,000発の花火を打ち上げることでよりパワーアップした観光コンテンツとなったこと、その他イベント等が増えてきたことも要因である。今後もインバウンド需要の増加などにより訪日外国人数は増加すると予想される。次年度以降も水燈路や怪喜宴など宿泊を促す夜のイベントを継続することで外国人宿泊客数は増加していくと予想する。しかし、インバウンド需要の増加を考慮しても目標値までの急激な増加を見込むことは難しい。

「中心市街地内の宿泊客数」については前年度より290千人増加となる1,230千人となった。新型コロナウイルス感染症の流行以降、減少していた国内旅行者数が右肩上がり回復していることから、次年度以降も増加していくと考えられる。松江市中心市街地においては、令和4年度に宿泊施設を整備したことで受け入れ態勢を強化したこと、水郷祭をはじめとする観光コンテンツの強化などにより観光客の増加を期待するが、急激な増加を見込むことは難しい。

今後のインバウンド需要、観光需要の高まりを確実に捉え、ソフト・ハード両面から受け入れ環境を整備し、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。

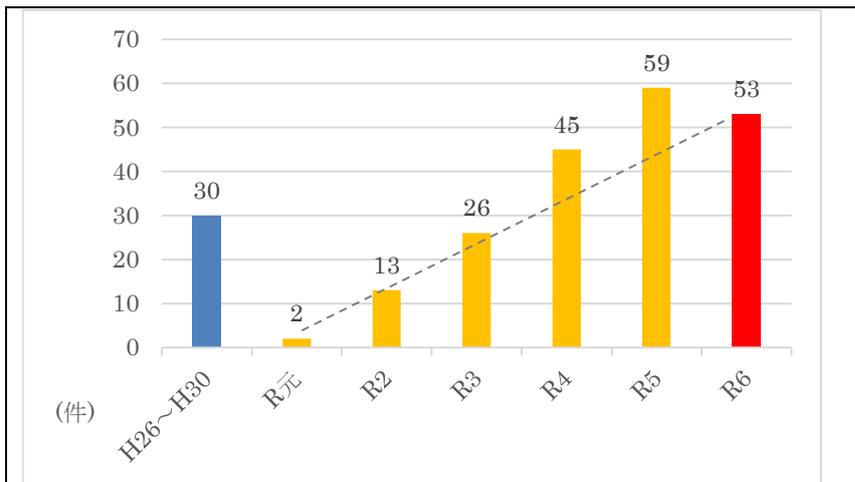
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「遊休不動産の事業化件数」 ※目標設定の考え方は基本計画 P57～P59 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H30	30 (基準年値) (H26~30 累計)
R元	2 (年間 2)
R2	13 (年間 11)
R3	26 (年間 13)
R4	45 (年間 19)
R5	59 (年間 14)
R6	53 (目標値) (R元. 12~7.3 累計)

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

〈分析内容〉

遊休不動産の事業化件数に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

後述するチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことが大きく寄与した結果、事業化件数が14件となり、期待された効果が発現している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】15件（累計） 【最新値】0件（累計） 遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取組みから普及啓発へ主たる取組みを移行したため事業化件数は上がっていないが、チャレンジショップ支援事業等、他の遊休不動産の事業化の取組みを後押ししているものとする。普及啓発として、令和3年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」、プロモーシ

	ヨン動画や SNS を活用した情報発信を行っている。
事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和 3 年度で完了したが、令和 4 年度以降も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施している。今後もガイドライン、プロモーション動画や SNS を活用した事業の普及啓発を継続して行う。また、新たな遊休不動産の掘り起こしと不動産オーナーへの協力依頼や活用への意識啓発を行うことで、事業化促進を図る。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年 6 月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6 件（累計） 【最新値】2 件（累計） 令和 4 年度と比較するとシェアオフィスの契約が 1 件増の 7 件となった。チャレンジカフェの利用者からは区域内に 1 件出店した。古民家を改装しての出店であったことから、遊休不動産の活用につながった。
事業の今後について	HP、インスタグラム、フェイスブックを主とした情報発信や、施設活用者の口コミにより周知されてきている。特にチャレンジカフェについてはコンスタントに利用があり、R6.3 からは夜に Bar として活用する利用者がいる。今後もチャレンジショップ支援事業と連携して、起業及び空き家・空き店舗を活用した出店へつなげていくことが期待できる。

③. チャレンジショップ支援事業（島根県、松江市）

事業実施期間	平成 9 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】14 件 令和 2 年度よりチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことにより毎年増加傾向であったが、令

	和 5 年度は 14 件となり、令和 4 年度の 19 件より減少した。しかし、依然高水準で推移をしていること、事業者の相談件数は増加傾向にあることから、今後の事業化に向けて期待できる結果となっている。
事業の今後について	新型コロナウイルスの感染症 5 類移行により今後も既存ストックの活用はコンスタントに増加するものと思われる。出店希望者をきめ細やかに支援していくことでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

④. 伊勢宮界限元気プロジェクト（松江新大橋商店街振興組合、株式会社伊勢宮界限元気プロジェクト）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致や地域資源を活かしたソフト事業等の実施により、魅力的なまちづくりを推進し、誘客の促進と地域コミュニティの再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0 件 平成 24 年度にテナントミックス事業として整備した 6 件のテナントは令和 3 年度に引き続き空きテナントなく推移している。近年ではドローンを活用した PR 動画などを制作しており、幅広い活動を展開している。
事業の今後について	今後は、空き店舗問い合わせ窓口と周辺商店街、チャレンジショップ支援事業との連携を図り、ドローンの有効活用も加え更なる事業化を図る。また、コロナ以前に実施していたイベント等の復活も検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

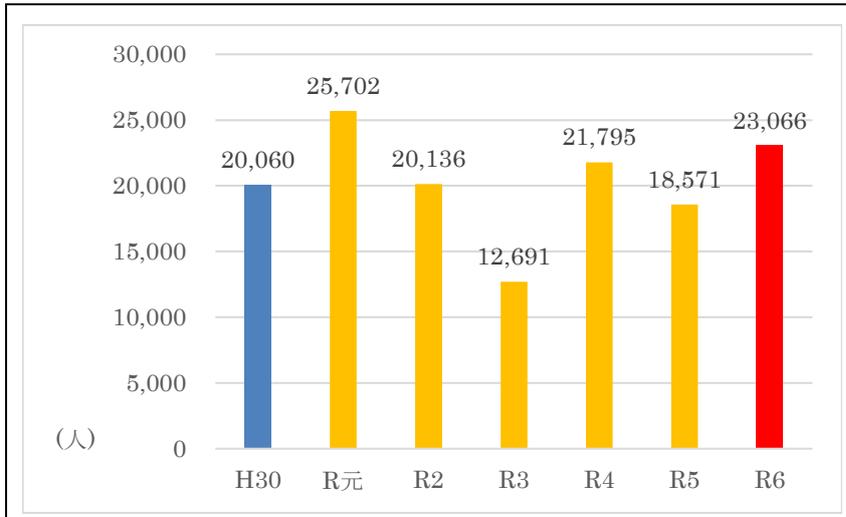
「遊休不動産の事業化件数」については、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標を達成した。「チャレンジショップ支援事業」については、前年度に比べると件数は減少したが、高水準で推移していること、また相談件数も増加していることから更なる活用が見込まれる。今後も引き続き遊休不動産の活用を推進していく。

また、古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」については、チャレンジカフェから区域内に 1 件の出店実績を積み上げることができた。引き続き利用者の新規出店を促し、遊休不動産の活用につなげていく。

水の都松江のまちの Re-project は遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取組みから普及啓発へ主たる取組みを移行した。今後もプロモーション動画や SNS を活用した事業の普及啓発を継続して行うことで機運醸成を図る。

(2)「歩行者・自転車通行量(平日・休日)」※目標設定の考え方は基本計画 P59～P62 参照

●調査結果の推移



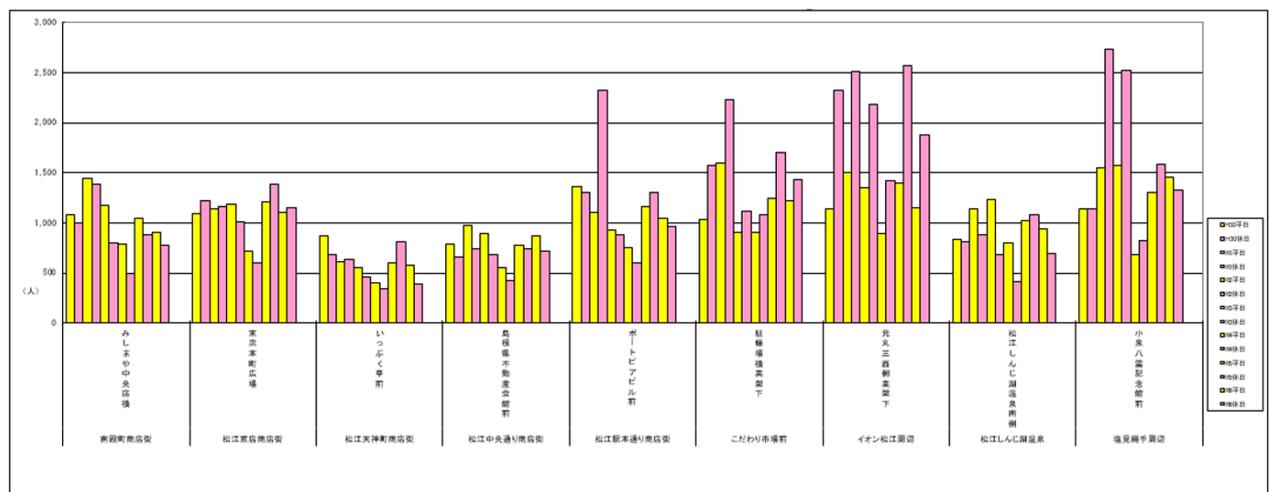
年	(人)
H30	20,060 (基準年値)
R元	25,702
R2	20,136
R3	12,691
R4	21,795
R5	18,571
R6	23,066 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年10～11月の平日・休日に、市内9地点において11時～18時で計測

※調査月：10～11月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の9地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅前輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側、小泉八雲記念館前）における歩行者及び自転車の通行量



〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

「チャレンジショップ支援事業」は対象エリアを拡大し、令和5年度の事業化件数14件と高水準で推移していることから、通行量の増加に今後も寄与していくものと考えている。

通行量は令和4年度から行われた新型コロナウイルスの水際対策の緩和等により旅行者の増加、市民・観光客の外出意識などが戻ってきたため増加傾向にあったが、令和5年度は減少した。令和6年度以降は新型コロナウイルスの影響がなくなることで、かつ新規出店等をより促進するこ

とで通行量が回復すると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,200人 【最新値】0人 遊休不動産を題材とした事業化提案を求める取り組みから普及啓発へ主たる取り組みを移行したため事業化件数は上がっていないが、チャレンジショップ支援事業等、他の遊休不動産の事業化の取り組みを後押ししているものとする。普及啓発として、令和3年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」、プロモーション動画やSNSを活用した情報発信を行っている。
事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4年度以降も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施している。今後もガイドライン、プロモーション動画やSNSを活用した事業の普及啓発を継続して行う。また、新たな遊休不動産の掘り起こしと不動産オーナーへの協力依頼や活用への意識啓発を行うことで、事業化促進を図る。これらの取り組みを継続することで、今後まちに新たなコンテンツが創出され、通行量の増加につながるものとする。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】80人 【最新値】40人

	令和4年度と比較するとシェアオフィスの契約が1件増の7件となった。チャレンジカフェの利用者からは区域内に1件出店があり、中心市街地の賑わい創出や回遊性向上に貢献している。
事業の今後について	HP、インスタグラム、フェイスブックを主とした情報発信や、施設活用者の口コミにより周知されてきている。特にチャレンジカフェについてはコンスタントに利用があり、R6.3からは夜にBarとして活用する利用者がいる。今後も区域内での事業化も期待でき、それに伴い通行量の増加が期待できる。

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】100人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和5年度については、外出・旅行マインドは徐々に回復しつつあるが、新型コロナウイルスの影響での減少分ほどの回復には至っていない。今後については観光需要の回帰とともに通行量増加に寄与していくと想定される。
事業の今後について	事業完了

④. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0人 令和2年度よりチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことにより毎年増加傾向であったが、令和5年度は14件となり、令和4年度の19件より減少した。しかし、依然高水準で推移をしていることから、今後の通行量の増加に

	寄与していくものと考えられる。
事業の今後について	新型コロナウイルスの感染症5類移行により今後も既存ストックの活用はコンスタントに増加するものと思われる。出店希望者をきめ細やかに支援していくことでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

⑤. まちあるき観光推進事業

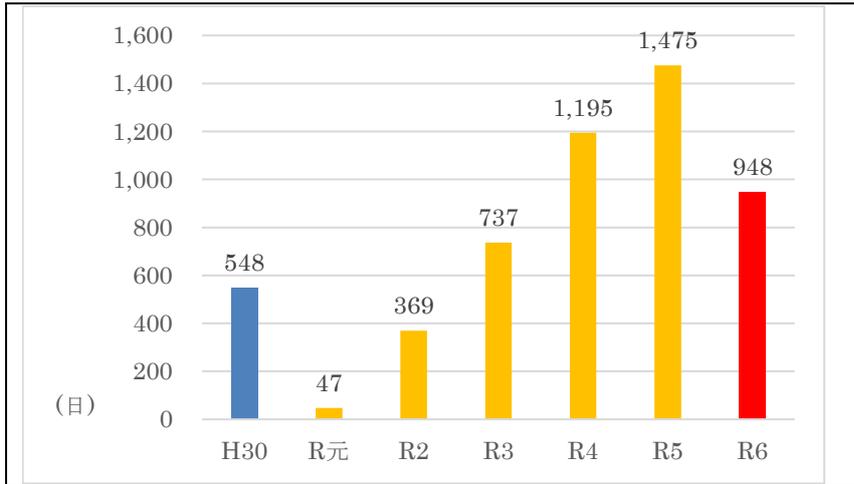
事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	当日受付のまちあるきコースを開設し、観光客の利便性の向上することで観光振興及び地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定しない 【最新値】1,903 人 ゴーストツアーや武者ガイドの利用者数は令和 3 年度が 2470 人、令和 4 年度が 2473 人、令和 5 年度が 1,903 人であり減少した。今後は、新型コロナウイルスの影響もなくなり増加していくと考えられる。
事業の今後について	さまざまなツールを活用し認知度の向上を図り、観光振興に寄与するとともに、通行量の増加につなげる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（平日・休日）」については、主要事業は概ね順調に進捗している。令和 5 年度は、令和 4 年度に比べ通行量は減少したが、新規出店も順調に増加し、観光客数も増加していることから、今後の通行量の増加に期待できる。引き続き水の都松江のまちの Re-project やチャレンジショップ支援事業における遊休不動産の活用により最終的には目標達成は可能であると考える。今後も官民連携して各事業に注力していくことで目標を達成していきたい。

(3) 「水辺の公共空間の活用日数」 ※目標設定の考え方は基本計画 P63～P65 参照

●調査結果の推移



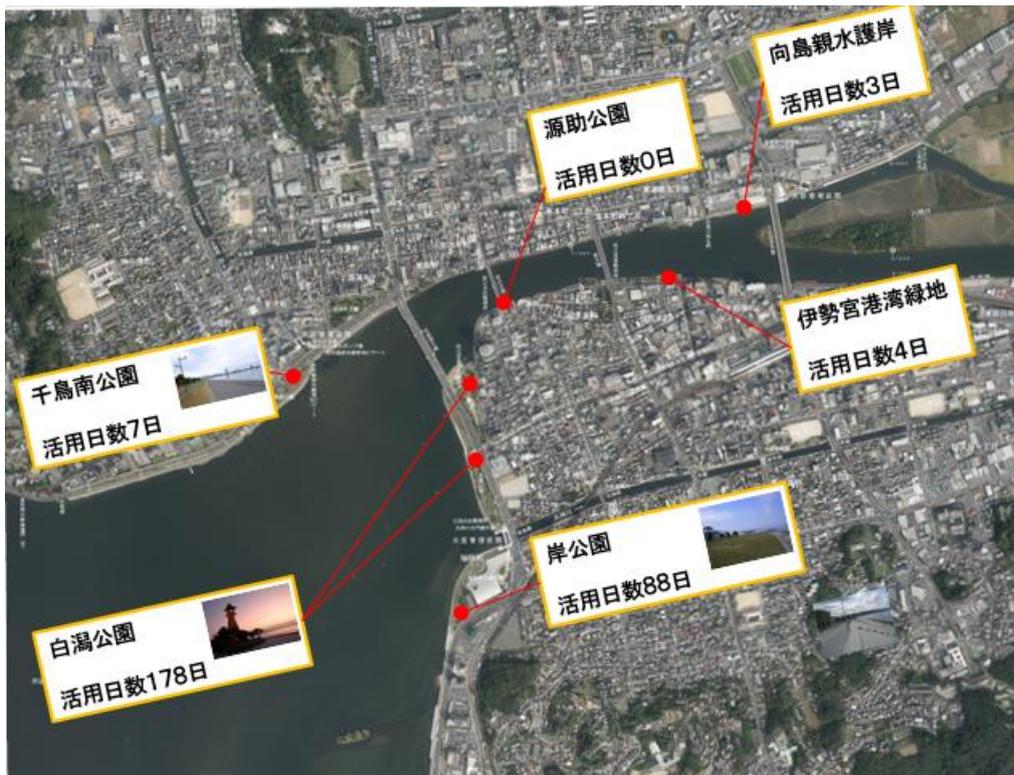
年	(日)
H30	548 (基準年値) (H26～30 累計)
R元	47 (年間 47)
R2	369 (年間 322)
R3	737 (年間 368)
R4	1,195 (年間 458)
R5	1,475 (年 280)
R6	948 (目標値) (R元. 12～7.3 累計)

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計



〈分析内容〉

水辺の公共空間の活用日数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

新型コロナウイルス感染症が収束し「松江水郷祭」や、各団体等によるイベントなどが例年並に実施された。白潟公園では、水辺の賑わい創出社会実験「みずべを愉しむエトセトラ」が一定期間継続的に実施され、岸公園でも様々なイベントが開催されたが、他の水辺の公共空間の利用は伸び悩んだ。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】107日 【最新値】191日 令和5年度の主なものとして、白潟公園においては7月から10月にかけてキャンプや屋台など多様な企画の「みずべを愉しむエトセトラ」を実施した。伊勢宮港湾緑地においては、7月と10月、11月に、「松江ジャーニー」や「みずべヤタイ in 御手船場」、「水辺横丁」といった飲食イベントを実施した。岸公園においては、10月にミズベリング松江協議会主催で恒例の「ミズベリング縁日」を実施した。また、10月末から11月末にかけて夕日色のシートに座って宍道湖の夕日を鑑賞する「宍道湖サンセットシアター」を開催した。これらの事業により目標値を達成し、水辺の公共空間の活用日数の増加に貢献した。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～6年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】22日 【最新値】20日 令和5年度は、市道の歩行空間整備や電線類の地中化工事、将来松江大橋南詰に整備予定の「水辺の賑わい拠点」の整備に向けた課題把握や進め方を検証するための社会実験とアンケートを実施した。
事業の今後について	令和6年度は、引き続き電線類の地中化工事・歩行空間整備工事を進めていき、並行して第2期白潟地区都市再生整備計画を策定することとしており、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭（水の都音楽祭市民実行委員会）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0日 事業完了
事業の今後について	事業完了

●目標達成の見通し及び今後の対策

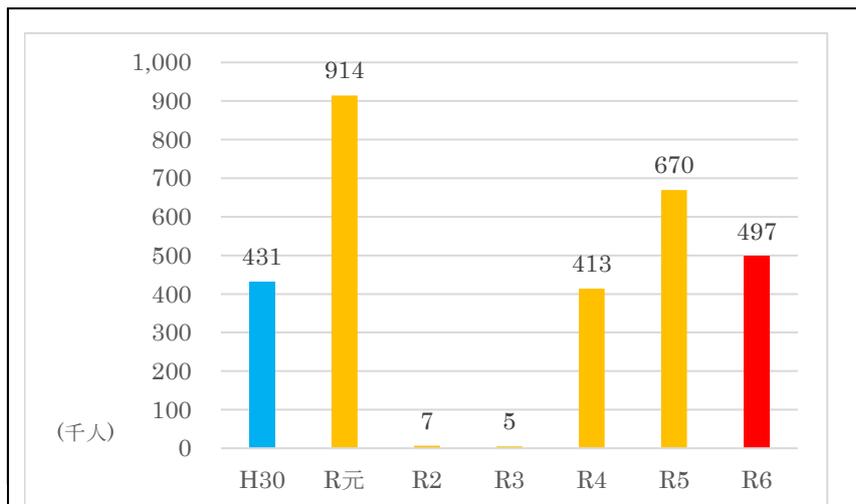
「水辺の公共空間の活用日数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標を達成した。単年度で見ると令和5年度は令和4年度より活用日数は減少した。一方で、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、今後はイベント等の開催もより活発になると思われることから、関係団体に対し活用を働きかけていくことで、水辺の活用日数の増加を目指していく。

また、事業効果をさらに高めていくために、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、民間事業者と連携し取り組むことで更なる事業効果の発現が見込まれる。

今後の水辺空間の活用促進については、白潟公園の利活用を民間事業者や地域からの要望を踏まえ検討することとなっており、国と調整して行っていく予定である。

(4)「水辺の公共空間の来訪者数」※目標設定の考え方は基本計画 P66～P67 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	431 (基準年値)
R元	914
R2	7
R3	5
R4	413
R5	670
R6	497 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

〈分析内容〉

水辺の公共空間の来訪者数の増加に向けた各事業が順調に推移し目標を達成した。水郷祭は前年度から250千人増の650千人となるなど、各イベントに参加する観客数は令和4年度より増加している傾向にあり、イベント等へ積極的な参加が増加したものと考えられる。令和6年度はイベント等での水辺の活用がさらに期待されることから、来訪者数が増加すると考えている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】5,000人 【最新値】21,395人 令和5年度の主なものとして、白潟公園においては7月から10月にかけてキャンプや屋台など多様な企画の「みずべを愉しむエトセトラ」を実施した。伊勢宮港湾緑地においては、7月と10月、11月に、「松江ジャーニー」や「みずべヤタイ in 御手船場」、「水辺横丁」といった飲食イベントを実施した。岸公園においては、10月にミズ

	ベリング松江協議会主催で恒例の「ミズベリング縁日」を実施した。また、10月末から11月末にかけて夕日色のシートに座って宍道湖の夕日を鑑賞する「宍道湖サンセットシアター」を開催した。これらの事業により最新値は目標値を上回っていることは、水辺に足を運ぶ来訪者が増えたことが要因と考えられる。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいくことで水辺の来訪者数を増加させていく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～6年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,000人 【最新値】370人 令和5年度は、市道の歩行空間整備や電線類の地中化工事、将来松江大橋南詰に整備予定の「水辺の賑わい拠点」の整備に向けた課題把握や進め方を検証するための社会実験とアンケートを実施した。
事業の今後について	引き続き、歩行空間の美装化整備工事、電線類の地中化工事を進めることで、周辺の水辺の来訪者数増加につなげる。

③. 水の都音楽祭（松江市）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということをも音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】60,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

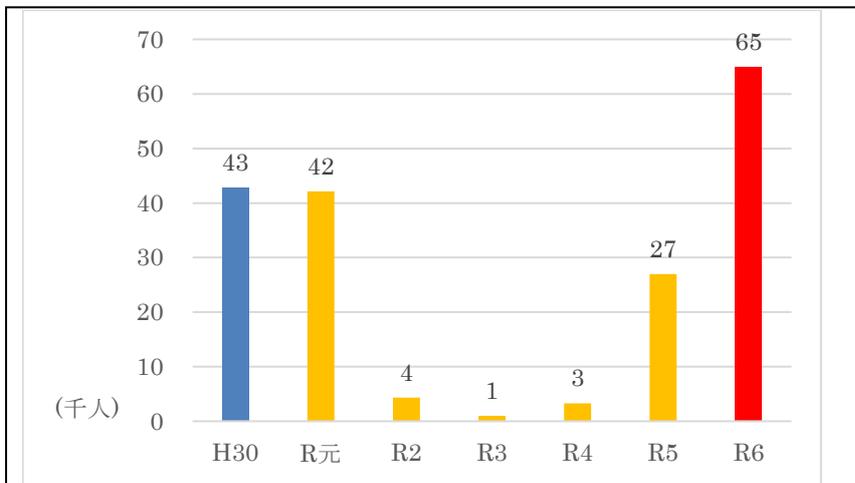
●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症が感染症5類に移行したため、次年度以降も増加傾向にあると考えられる。松江水郷祭についても令和6年度も実施することが決まっている。ミズベリング協議会

をはじめとする様々な事業主体がイベント等に活用していくことで、引き続き順調な活用日数の増加を期待する。

(5) 「中心市街地内の外国人宿泊客数」 ※目標設定の考え方は基本計画 P68～P70 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	43 (基準年値)
R元	42
R2	4
R3	1
R4	3
R5	27
R6	65 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

〈分析内容〉

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和4年から3万1千人増の3万4千人となった。令和4年10月に水際措置が終了したことから大幅に増加しており、今後も近隣空港を発着する国際便などにより、増加が期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和5年度については、外出・旅行マインドは回復しつつあるが、新型コロナウイルス以前までの回復には至っていない。しかし、インバウンド需要の高まりによる効果は徐々に発現すると考えられ、今後は外国人宿泊客数の増加に寄与していく。
事業の今後について	事業完了

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～]
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	【目標値】2,000人

値及び進捗状況	【最新値】3,100人 中心市街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終了。それぞれ客室数は、199室と179室を整備。令和5年度は想定稼働率を超える結果となり外国人宿泊客数にも大きく寄与した。
事業の今後について	事業完了

⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）

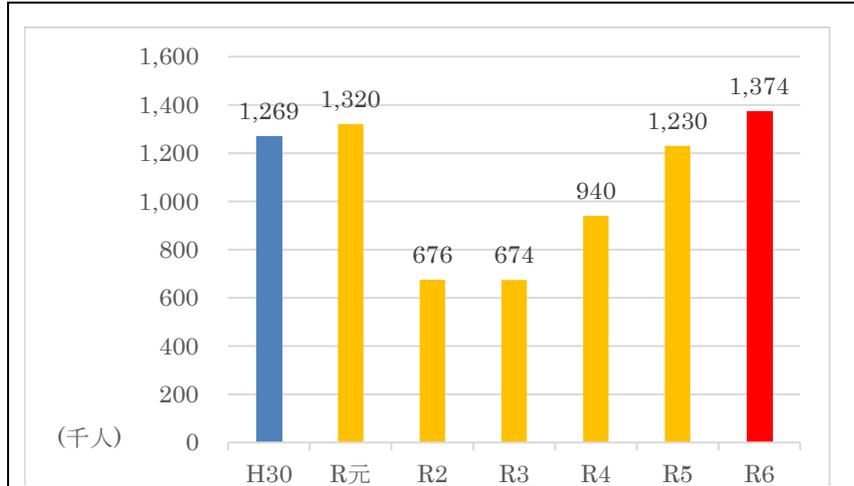
事業実施期間	令和4年度～令和6年度
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】武者によるお出迎え実績58人 城下町松江ならではの素材を活用した閑散期誘客対策事業、JRとの連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の3つの事業の実施回数を増やすことで松江の魅力向上を図った。
事業の今後について	観光戦略プランを強力に推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については増加傾向にある。目標値には達していないものの、今後のインバウンド需要の高まりと近隣空港を発着する国際便などにより今後も引き続き増加していくものと考えられる。城下町・水の都魅力発信事業では、国宝松江城・お城まつりの開催や武者のまち発信事業の実施を通して、松江城の魅力を発信していく。また、「松江の夕日」のブランディング化を図り、長期的なプロモーション戦略を実施することで、観光地としての魅力を高め、観光誘客及び宿泊者数の増加に寄与する。さらに水郷祭が打上発数を増やし、より魅力あるコンテンツになったように、現在あるものを活かすことで、松江の観光地としての魅力向上を図っていく。

(6) 「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方は基本計画 P71～P73 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	1,269 (基準年値)
R元	1,320
R2	676
R3	674
R4	940
R5	1,230
R6	1,374 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

中心市街地内の宿泊客数については、令和3年以降増加傾向にある。令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上位置づけが5類感染症になったことから、人々の観光への機運醸成がなされてきた。水郷祭の規模拡大や国宝松江城マラソンの開催、水燈路の実施により夜の賑わいをつくることで宿泊客数の増加が大きく期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和4年度については、外出・旅行マインドは回復しつつあるが、新型コロナウイルスの影響での減少分ほどの回復には至っていない。今後さらに中心市街地の宿泊客数の増加に寄与していく。
事業の今後について	事業完了

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～]
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】26,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（松江市）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】87,000人 【最新値】135,000人 中心市街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終

	了した。170 室の想定に対し、それぞれ客室数は、199 室と 179 室を整備。想定を上回る稼働率で宿泊客数に大きく寄与している。
事業の今後について	事業完了

⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）

事業実施期間	令和 4 年度～令和 6 年度
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 4 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】武者によるお出迎え実績 58 人 城下町松江ならではの素材を活用した閑散期誘客対策事業、JR との連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の 3 つの事業の実施回数を増やすことで松江の魅力向上を図った。
事業の今後について	観光戦略プランを強かに推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の宿泊客数」については回復傾向にあり令和 6 年度も増加することが見込まれる。各種事業の PR 活動を活発に行い、宿泊客数の増加に繋げたい。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響により生まれた観光客のニーズを汲み取り、環境整備を引き続き進めていく。また、各種事業の PR 活動を活発に行うことで、令和 6 年度の目標達成に向けて取り組んでいく。